

【緑地を楽しむ本】

リンドグレーンの戦争日記

アストリッド・リンドグレーン著 石井登志子訳 岩波書店



この本は彼女がまだ作家としてデビューする以前、1939年から1945年までの間のストックホルムにおけ

る一家庭の日常生活や、第2次大戦の状況等を記録した日記である。自国で出版されたのは2015年だという。

彼女の国スウェーデンは大戦中、中立を守り通した。が、フィンランド、ノルウェー、デンマーク、イギリス、ドイツ、ロシア等で激しい戦争があり、それも一筋縄でいかないありさま、日本の動きなど、私たちがあまり知らない事が満載である。

スウェーデンは中立国なので、飢えることはな

かったが、バターやコーヒーなど様々な物が配給制になったりした。

それにしても戦闘の報告は目を覆いたくなるすさまじさだ。また、戦争中の国ではおびただしい数の餓死者が出ている。さらに、終戦後の荒れ果てた状況等、戦争のむごさを改めて痛感した。

リンドグレーンは「ドイツは、スターリングラードの戦いですでに大敗していた____ どうして何年もの間、こんなに意味のない戦いを続けていたのだろうか」と書いている。

戦争は始めてしまうと、なかなか終われないようだ。私たちは再度戦争を起こさないために、何をすべきか考えたい。

(齋藤好子)